

「牧師辞任の1年間延期について」(2026.3.15)

なぜならイスラエルの神、主はこう言われる。主が地の面に雨を降らせる日まで、壺の粉は尽きることなく、瓶の油はなくなる。〈列王上〉17:14

エリヤが預言した通り、イスラエルに干ばつが襲う。そのため、神はエリヤをサレプタのやもめに導かれた。パンを求めるエリヤにやもめは、壺には一握りの小麦粉と瓶にはわずかな油があるだけ、と窮状を訴える。その時エリヤが告げたのが上掲のみ言葉である。そして不思議にも干ばつが終わるまで、壺の粉は尽きることなく、瓶の油もなくならなかったのである。



昨年の今ごろ、自分の年齢や健康のこと、自分の説教や牧会の限界を感じ、今後の横手教会の成長のためには、私は横手教会を辞任すべきと感じ、またそのように促すみ言葉を戴いた。それで、長老会に申し出て、4月の総会で承認していただいた。当然のことながらより相応しい牧会者を主が備えて下さると信じて疑わなかった。しかし、結果は今年1月末になっても東神大学長から紹介はなく、次年度を待つことになった。

新年度の横手教会はどうなるのか。無牧となったら誰かに代務をお願いしなければならない。毎週の礼拝の準備、説教者の確保など長老会ははじめ教会員は大きな奉仕を担わなければならない。これが今後の横手教会の成長のためになるのか？そんなことを逡巡するうちに、上掲のみ言葉が迫ってきた。自分の弱さ、力無さを主が支えて下さるとの励ましである。辞任に当たり、私の思う時と主の思う時は違うのかもしれない。それで、2月1日の長老会・招聘委員会で辞任の1年間延期を申し出させていただいたのである。

長老会はこの申し出を受け入れ、先週2/8礼拝後の臨時総会に諮り、全員一致で承認して下さった。横手教会赴任10年目の2026年度、腰に帯を締め、主の体なる横手教会に仕えたいと決意しています。皆さんの祈りと協力、宜しくお願い致します。

今心に浮かぶみ言葉があります。エレミヤ29:11です。エリコの城壁を崩す祈りを合言葉に過ごした1年は無駄ではない。将来と希望を与える計画の一端なのだと信じ、新しい年度に踏み出したい。